

設置構想の概要

区分	大学設置						
名称	大分新大学 (仮称)			開設予定年度	平成15年度		
位置	大分県						
	学部・学科名	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	備考	
学部 学科名・ 入学定員等	教育福祉科学部 (英訳名: Faculty of Education and Welfare Science)	人	年次 人	人			
	学校教育課程 (英訳名: School Education Course)	100		400	学 士 (教育)	経済学部 の3年次 編入学定 員は学部 共通分	
	情報社会文化課程 (英訳名: Computer Science, Society and Culture Course)	50		200	学 士 (教養)		
	人間福祉科学課程 (英訳名: Human Society and Welfare Science Course)	95		390	学 士 (教養)		
	計	245		990			
	経済学部 (英訳名: Faculty of Economics)		3	10			
	経済学科 (英訳名: Department of Economics)	130		520	学 士 (経済学)	経済学部 の3年次 編入学定 員は学部 共通分	
	経営システム学科 (英訳名: Department of Business Studies)	130		520	学 士 (経済学)		
	地域システム学科 (英訳名: Department of Regional Studies)	45		190	学 士 (経済学)		
	計	305	10	1,250			
	医学部 (英訳名: Faculty of Medicine)						
	医学科 (英訳名: School of Medicine)	85	2	10	560	学 士 (医学)	工学部の 3年次編 入学定員 は学部共 通分
	看護学科 (英訳名: School of Nursing)	60	3	10	260	学 士 (看護学)	
	計	145	20	820			
	工学部 (英訳名: Faculty of Engineering)		3	10			
	機械・エネルギーシステム工学科 (英訳名: Department of Mechanical and Energy Systems Engineering)	80			320	学 士 (工学)	工学部の 3年次編 入学定員 は学部共 通分
	電気電子工学科 (英訳名: Department of Electrical and Electronic Engineering)	80			320	学 士 (工学)	
	知能情報システム工学科 (英訳名: Department of Computer Science and Intelligent Systems)	70			280	学 士 (工学)	
	応用化学科 (英訳名: Department of Applied Chemistry)	60			240	学 士 (工学)	
	福祉環境工学科 (英訳名: Department of Human Welfare Engineering)	80			320	学 士 (工学)	
	計	370	10	1,500			
	総計	1,065	40	4,560			
	教育学研究科 (英訳名: Graduate School of Education)						
修士課程	学校教育専攻 (英訳名: School Education)	6		12	修 士 (教育学)		
	教科教育専攻 (英訳名: Subject Teaching)	33		66	修 士 (教育学)		
	計	39		78			

経済学研究科 (英訳名: Graduate School of Economics)					
修士課程	経済社会政策専攻 (英訳名: Economic and Social Policy)	8		16	修士 (経済学)
	地域経営政策専攻 (英訳名: Community and Business Management)	12		24	修士 (経済学)
計		20		40	
医学系研究科 (英訳名: Medical Research Course)					
博士課程	形態系専攻 (英訳名: Morphology)	6		24	博士 (医学)
	生理系専攻 (英訳名: Physiology)	10		40	博士 (医学)
	生化学系専攻 (英訳名: Biochemistry)	8		32	博士 (医学)
	環境・生態系専攻 (英訳名: Ecology)	6		24	博士 (医学)
計		30		120	
修士課程	看護学専攻 (英訳名: Nursing)	16		32	修士 (看護学)
	医科学専攻 (英訳名: Medical Science)	15		30	修士 (医科学)
計		31		62	
工学研究科 (英訳名: Graduate School of Engineering)					
博士前期課程	生産システム工学専攻 (英訳名: Production Systems Engineering)	27		54	修士 (工学)
	電気電子工学専攻 (英訳名: Electrical and Electronic Engineering)	27		54	修士 (工学)
	知能情報システム工学専攻 (英訳名: Computer Science and Intelligent Systems)	24		48	修士 (工学)
	応用化学専攻 (英訳名: Applied Chemistry)	21		42	修士 (工学)
	建設工学専攻 (英訳名: Architectural Engineering)	15		30	修士 (工学)
	福祉環境工学専攻 (英訳名: Human Welfare Engineering)	21		42	修士 (工学)
	計		135		270
博士後期課程	物質生産工学専攻 (英訳名: Materials Production)	6		18	博士 (工学)
	環境工学専攻 (英訳名: Environmental Engineering)	6		18	博士 (工学)
計		12		36	
合計		267		606	
福祉社会科学研究科 (英訳名: Graduate School of Social Service Administration)					
修士課程	福祉社会科学専攻 (英訳名: Social Service Administration)	12		24	修士 (福祉社会科学)
計		12		24	
総計		279		630	
総合計		1,344	40	5,190	

大分大学と大分医科大学とを統合して大分新大学（仮称）を設置する必要性等

1 大分大学及び大分医科大学の沿革

大分大学は、昭和24年5月に、学芸学部及び経済学部の2学部からなる新制大学として発足し、昭和47年5月には工学部を設置した。その後、学芸学部は教育学部、教育福祉科学部と名称変じた。現在、教育福祉科学部3課程・経済学部3学科・工学部5学科から構成されている。大学院は、教育学研究科、経済学研究科、工学研究科及び福祉社会科学研究科を擁している。

また、大分医科大学は、昭和51年10月に開学。現在、医学科及び看護学科の2学科からなる医学部と大学院医学系研究科を擁し、604床の附属病院からなっている。

2 統合の必要性

- (1) 社会の変革とともに大学に対する社会の期待やニーズは変化し、多様化してきており、国立大学としては、このような状況を十分に認識し、地域の文化・教育・学術・医療の中核的な拠点としての役割を積極的に果たすことが責務と考える。
- (2) そのため、大分大学と大分医科大学は、それぞれの大学が所有する知的、人的、物的、財政的資源を統合することにより、学部の壁を越えるなど既存の組織や運営方法を見直し、教育・学術研究の拡大や新たな学問分野の開拓に取り組み、有為な人材の養成を重視した教育・研究並びに医療を行い、開かれた大学づくりを推進し、地域社会の発展ひいては国際社会の発展へ一層貢献していかなければならないものと判断し、統合するものである。

3 統合によって期待される効果

大分大学と大分医科大学の統合により、新しい大学の人的・物的資源が増大し、これらを積極的に活用することによって、次のような効果が期待できる。

(1) 教育研究上の効果

大分大学の福祉と大分医科大学の医療・看護の連携により

- ① 新たな学際領域が創出される。例えば、「老年学」について医学・看護学・人間福祉科学・福祉社会政策学・福祉関連技術の面から総合的な教育研究が可能になる。
- ② 医療・福祉の総合的知識を持つ専門職業人の養成や現職専門職及び社会人等の生涯教育の場が提供される。

(2) 地域貢献の推進と国際性の向上

- ① 現在両大学が個別に取り組んでいる地域との連携活動は、保健・医療・福祉・建築・地域計画等の分野の総合的な連携が可能となり、「生活者に優しく暮らしやすい地域社会」を実現することができる。
- ② 学術交流や留学生交流についても、分野や領域が拡大し、国際性の向上に資する。

(3) 大学基盤の強化

- ① 教職員間の相互啓発の機会が多様化し、人材の流動化や資源の重点的投資などが可能となる。
- ② 学生は授業、課外活動及びオフィスアワーを通して異なる分野の教職員、学生との広範な人的交流により、創造性豊かな人格の形成が期待される。
- ③ 知的文化的拠点としての組織づくりが進み、教育研究など新しい大学の活動は一段と活性化し、社会や時代の要請に応えることができる。

4 大学改革の一環としての統合

両大学の統合により、人的・物的資源を活用して、教育研究体制の充実、地域貢献の推進及び国際性の向上並びに経営基盤の強化を図り、国立大学法人化への適切な対応など、次のような改革を進める。

- (1) 新生大学の新たな決意を表明するため、「個性と特色のある」新大学の理念の策定
- (2) 教養教育重視のため、その実施に権限と責任を持つ組織体制の整備及びカリキュラムの編成
- (3) 学際的研究を推進し、新たな学際領域の創出と大学院の設置の計画
- (4) 専門教育のオープン化による有能な人材の養成
- (5) 新生大学の機能を有機的に融合させ、実のある地域貢献の推進及び国際性の向上
- (6) 教育研究支援体制充実のための附属教育研究施設の改組・再編

- (7) 管理運営体制の整備充実
- (8) 事務組織体制の再編

以上のことを踏まえ、大分大学と大分医科大学では、教育福祉科学部、経済学部、医学部及び工学部並びに大学院の基本組織を現状のまま、平成15年10月に統合し、新たに大分新大学（仮称）を設置したい。

大分新大学（仮称）の学部等については、統合前の教育理念を引き継いで展開することから、従来の各学部等の専門科目によるカリキュラムは基本的に変更しない。

1 各学部の教育理念について

- (1) 教育福祉科学部は、教育・人間福祉を基盤とする教育・研究を推進し、地域の教育・社会・文化の発展に寄与するとともに、人間福祉の視点に立つ資質の高い教員、使命感をもって福祉分野に携わる人材、国際化・情報化社会に対応する専門的知識を創造的・総合的に活用できる人材を養成し、豊かな共生社会の実現に貢献する。
- (2) 経済学部は、情報化と国際化及び高齢化が急速に進展する21世紀を展望し、多様化した社会的ニーズに積極的に対応するため、経済にかかわる専門知識を広く教育・研究するとともに、地域に根ざし、経済や企業活動を軸にした地域社会の分析や地域政策などに関する教育研究を組織的に進め、社会の次代を担う人材を養成する。
- (3) 医学部は、医と看護に関する最新の学術を教授・研究し、高度の医学及び看護学の知識と技術並びにそれらの本義を見失わない道徳観と、それを支える豊かな教養を身につけた臨床医及び医学研究者並びに看護職者及び看護学研究者を養成し、もって医学及び看護学の進歩、国民健康の維持増進、さらに医療・保健を中心に地域及び国際社会の福祉に貢献することを使命とする。
- (4) 工学部は、物質・環境・情報・福祉を柱とした学際的分野に挑戦し、国際的に評価されるとともに次世代の先端技術につながる独創的な研究を推進することによって地域に貢献するとともに、自ら課題を探究する意欲と柔軟な思考力を有し、国際標準を満たす基礎・専門分野の学力に裏打ちされた社会性並びに国際性豊かな人材を養成する。

2 教養教育について

(1) 基本的な考え方

- ① 大分大学では、「四年一貫教育」を目指し、学長特別補佐（教養教育主管）を委員長とする「教養教育協議会」の運営のもとで、全学の教員による教養教育の実施すなわち「全学出動方式」により教養教育を実施してきた。大分医科大学では、副学長（教育・研究担当）を委員長とする「学務委員会」の運営のもとで、教養・基礎教育を「全学出動方式」で実施してきた。統合後においても両大学の実績を踏まえ、充実した「全学出動方式」により実施する。
- ② 全人教育の重視、基礎的共通教育の充実、社会的関心の喚起、学生の興味関心の重視を教養教育の目的とする。また、教養教育を全学の教員が担当することにより、それぞれの教員の専門分野における最新の学問的成果を踏まえた幅広い学問領域を提供する。
- ③ 教養教育重視の体制として、学長特別補佐、学部の学務委員長及び教員代表で組織する権限と責任を持った「教養教育委員会（仮称）」を設置し、学長直属の委員会とする。また、「大学教育開発支援センター」（学内措置）と連携して、教養教育の見直し、評価、FD、メディア教育など教育活動の在り方を総合的に探求し、新しい大学の理念・目標を実現するための体制を強固なものとする。

(2) カリキュラム

統合後のカリキュラムは、次の基本事項を柱に作成する。

- ① 教養教育科目（大分大学）、教養・基礎教育（大分医科大学医学部医学科）、基礎科目（大分医科大学医学部看護学科）であったものを改編して新たに教養教育科目とし、導入教育、全学共通教育、外国語、身体・スポーツ科学、基礎教育及び日本語・日本事情に区分し、全学共通の教養教育として位置付ける。

- ② 統合後の新しい大学は2つのキャンパスに分かれる。この地理的不便さが学生への過度の経済的・時間的負担とならないよう、しかも充実した教養教育を実現するため、週の1日程度、キャンパス間を相互に移動して受講できることとする。
- ③ 教養教育では、全人教育、専門分野に共通するスキル教育、課題探求・解決能力の育成を図る。また、学生の専門への動機付け、及び将来への意識啓発を目的とする導入教育も行う。
- ④ 学生の履修を容易にするために、原則としてセメスター制に統一し、またセメスター制以外の学部・学科の授業の履修に対しては、開講授業時間等を考慮して換算した単位数の取得を認める。
- ⑤ 専門科目を含めた全学部の授業を可能な限りオープンにし、原則として他学部の学生も受講できることとする。

(3) 特色

① 多彩な授業科目の展開

現在の両大学の手薄な分野を補完する形で、多彩な授業科目を開講し、履修選択幅を拡大させる。例えば、現大分医科大学の学生にとっては、将来、人間性豊かな医師や看護師を目指すために必要な「心理学」、「音楽」、「美術」、「文学」など多くの科目が受講可能となる。

一方、現大分大学の学生にとっては、「医科学入門」、「医療人間科学」、「健康科学概論」、「医療人類学」等の医療関連科目の受講が可能となる。

② 相互にキャンパスを移動して受講

両キャンパスの距離的な問題を解消するため、水曜日を相互にキャンパス移動して、他キャンパスで開講している授業を受講できるようにする。

現大分大学キャンパスでは、教養教育科目の多くを水曜日の1限及び2限に集中させるとともに、午後にも大分医科大学学生の受講希望の多い教養教育科目あるいは専門教育科目を開講する。

一方、現大分医科大学キャンパスでは、「医学」、「看護学」関係の教養教育科目や大分大学生が受講を希望している「看護・福祉」関係の専門科目を開講する。

両キャンパス間の学生の移動方法は、シャトルバスの運行を予定している。

③ 広範な人的交流

相互にキャンパスを移動することにより、授業を通しての学生及び教員との交流や課外活動を通じての学生交流、あるいはオフィスアワーを利用した教員との交流拡大が想定され、異なる分野の学生及び教職員との広範な人的交流による創造性豊かな人格の形成が期待される。

④ 遠隔授業システムの導入

両キャンパス間を映像と音声により相互に結ぶブロードバンドネットによる遠隔授業システムを導入し、キャンパス移動が困難な学生でも他キャンパス開講の授業が受講できるようにする。

⑤ 学部の枠を超えた専門科目の受講

今日の教育研究領域は、既存の学部・学科等の枠を超えた広がりがあり、また、入学する学生のニーズも多様化している。

これに対応するため、専門教育においても関連領域を主体とした専門科目の受講を他学部生にも認める。例えば、医学・看護学系の学生は、「人間福祉学」、「高齢者福祉学」、「福祉制度」、「医療福祉経済」などを、福祉系の学生は、「先端医療」、「老年看護学」、「福祉機器」などを受講することが可能となる。